研究主題

**未来を拓く国語教育の創造**

―主体的・対話的で深い学びが育つ単元づくりー

読むこと部会　研究主題

主体的・対話的で深い学びとなる読むことの単元づくり

**第１学年国語科学習指導案**

単元名

おはなしの せかいを つたえよう

～きりんになりきって　そうぞうし、おんどくはっぴょうかいを　しよう～

学習材名「夕日のしずく」（三省堂　１年）

○育てたい読みの力の分析について

①分析結果は、指導案には載せない。しかし、教師側が意識し、指導することが主な目的。かつ、主体的な学びを実現するという観点から、児童との共有も大切になってくる。そのため、別紙で提案する予定。系統性が見える、表のような形で示せると理想的か。

②分析の観点について

　ア　読み取るために必要なのは、何をどのようにできることなのか？

　イ　アの中で習得していく順序（段階・系統）はあるか？あるならどのような系統か？

　ウ　習得させるためには、どのような指導が、どのくらいの頻度で、行うのが必要か？適切か？

　エ　誰が、どのような場面で、どのような観点で評価するのが適切か？

　オ　子供たちが自覚でき、活動の意義や目的、必要性、めあてを共有できるようにする工夫（アやエとも関連するが）

等から分析する。

③

日　時：平成３１年２月２２日(金) ５校時

児　童：港区立高輪台小学校 第１学年２組　３３名／　第１学年３組　３３名

担　任：港区立高輪台小学校　　教諭　　木村　みどり　　／　主任教諭　貞森　喜代美

指導者：大田区立矢口西小学校　教諭　　本條　禎之　／　足立区立舎人小学校　主任教諭　福田　晴香

**１　単元の目標**

　○　想像したことをもとに、語のまとまりや言葉の響きに気を付けて音読することができる。（知識・技能）

　○　物語の内容の大体を捉えることができる。（思考・判断・表現）

　○　叙述を基に、登場人物の行動を中心に想像を広げることができる。（思考・判断・表現）

○　作品に興味・関心をもち、すすんで音読発表会に取り組もうとしている。（主体的に学習に取り組む態度）

**２　単元の評価規準と学習活動に即した具体的な評価規準**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | **ア 知識・技能** | **イ 思考・判断・表現** | **ウ 主体的に学習に取り組む態度** |
| **単元の評価規準** | ○想像したことをもとに、語のまとまりや言葉の響きに気を付けて音読している。 | ○物語の内容の大体を捉えている。○叙述や挿絵を基に登場人物の行動を中心に想像を広げている。 | ○作品に興味・関心をもち、すすんで音読発表会に取り組もうとしている。 |
| **学習活動に即した具体的な評価規準** | 1. 場面ごとに想像したことを生かし、工夫して音読している。（９時）
 | 1. 物語の登場人物や出来事、結末について捉えている。（２時）
2. 場面の様子を表す言葉に着目して登場人物の行動を具体的に想像している。（４・５・６時）
3. 「夕日のしずく」が表すものを考え、登場人物の様子を具体的に想像している。（７時）
4. 「ぴかぴか笑った」という表現に着目して登場人物の様子を具体的に想像している。（８時）
 | 1. 音読でお話の世界を伝えるという言語活動を理解し、作品に興味・関心をもって教師の読み聞かせを聞いている。（１時）
2. 物語の中に出てくる心に残った文や言葉を見つけようとしている。（３時）
3. 聞き手を意識して音読し、感想を伝え合おうとしている。（１０時）
 |

**３　単元構想**

　(1) 児童について（児童観）

　　　　本学級の児童は家庭で毎日音読に取り組んでおり、声の大きさや速さなど、音読の技能を意識しながら読むことができるようになってきている。「くじらぐも」の学習では、第２学年に音読発表をしている。どのように音読するのかを３、4人のグループで話し合いながら工夫し、役に分かれたり動きをつけたりして、楽しく意欲的に学習に取り組むことができた。音読の工夫を考える際に使った言葉は、「そうぞうをひろげることバング」として集め、掲示している。このような学習経験を生かしながら、場面の様子について具体的に想像する力を、より高めていきたい。

　(2) 学習材について（学習材観）

　　　　 本学習材は、一読するとありときりんが仲良くなる話だが、他者との出会いが自分の世界を広げることや、身近な幸せに気付くことの大切さなど、読み手に様々な思いや考えをもたらす作品である。中心人物であるきりんとありが、体長、視点の高さ、暮らしている環境といった点で対照的に描かれている。対照的な二人の心情が交わり、それぞれが新しい発見をする様子が次の二つの特徴をもって描かれている。第一に、会話文が多いという特徴である。ありときりんの会話を中心に物語が展開し、地の文と関連させて考えることで、登場人物の心情とその変化を捉えることができる。第二に、オノマトペによる表現効果という特徴である。オノマトペにより、場面の様子や登場人物の行動が豊かに表現されている。これら二つの特徴は、児童が楽しみながら役割読みをしたり、場面の様子を想像しながら音読の工夫を考えたりすることに適している。また、本学習材には直接的な心情表現が少ないため、叙述を基に様子を想像するという指導事項をおさえるのに適した教材であると考えた。

(3) 単元について（単元観）

　 ①言語活動について

本単元は、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像する力を身に付けさせることをねらいとしている。また、想像したことを基に互いの音読を聞き合うことで、声に出して読んだり、伝えたりする良さや楽しさを児童に実感させたいと考える。

そこで、単元末に音読発表会をするという言語活動を設定した。本単元での音読発表会とは３～４人 の児童が一つのグループをつくり、役割を決めて音読する活動である。物語の内容を読んで伝えるためには、読み手が物語の世界のイメージをもっていなければならない。また、登場人物の行動を具体的に想像することが、聞き手に物語の世界を豊かに伝えることにつながる。音読発表会という目標に向け、登場人物が何をしたのか、どのような様子だったのかを場面ごとに考える学習を積み重ねることで、ねらいが達成できると考えた。各場面の最後に中心人物のつぶやきを加えた音読台本が、学習を進める過程で少しずつ作られ、単元末の音読発表会では、児童が物語の世界について考えたことが表現されるという学習過程を構想した。

1. 評価について

　 　 第一次では、物語を大きく捉えて読むことが評価の対象となる。時間の経過に沿って話の展開を捉えているか、会話文の主語を適切につかんでいるか、学習材全体から好きな部分や気になる部分を選ぶことができるかを評価する。第二次では、登場人物の行動を具体的に想像するための叙述に気付き、叙述を基に想像しているかを評価する。音読の工夫の根拠を話し合う際の発言内容や、毎時間の最後に書かせるきりんの吹き出しの記述を評価の対象とする。第三次では、音読の工夫の話し合いでの発言内容と音読発表会の振り返りが評価の対象となる。毎時間の評価は座席型評価補助簿に記録し、その記録を活用して次時の個別指導を行う。本単元では音読発表会に向け、上手に音読できるようになりたいという児童の気持ちを大切にしつつ、音読の技術の向上よりも内容の解釈に重点を置いて評価していく。

**４　研究主題に迫るために**

【低学年分科会が目指す学び】

主体的な学び……言語活動への見通しをもって、児童がすすんで学習に取り組もうとする学び。

対話的な学び……登場人物の行動を想像するために繰り返し学習材を読み、友達と音読を聞き合う学び。

深い学び…………叙述をもとに想像したことを関連付け、作品に対する自分なりの思いや考えをもつ学び。

◎目指す学びを実現するための手立て　　（主）…主体的な学び　　（対）…対話的な学び　　（深）…深い学び

① 　既習の学習材を生かした言語活動モデルの提示　（主）

　　　　児童が言語活動への見通しをもって主体的に学習に取り組む学びを実現するために、第一次の導入で

教師から単元末の言語活動のモデルを示す。既習の学習材を使った教師の音読を聞くことで、児童はこ

れまでの音読発表会との違いに気付き、単元のゴールイメージを明確にもつことができると考えた。読み手

が考える中心人物のつぶやきが加わった新しい形の音読発表会を「やってみたい、できそうだ」と児童が

感じるために、内容を既に知っている学習材を活用する。

1. 読みの視点の明確化　（主）

叙述を基に登場人物の行動を具体的に想像したり、行動の理由を考えたりすることの必要性を児童自

　　　　身が感じることが主体的・対話的な学びにつながると考えた。そこで音読発表会に向け、毎時間「きりんになりきってよむ」という課題を提示することにした。行動について考える対象を中心人物の「きりん」に限定すれば、第１学年の児童が叙述を基に想像を広げることが容易になると考えた。また、具体的な場面や状況を挙げて「自分だったらどう感じるか」「自分だったらどんなことをするか」と問いかけ、児童が自分の経験とつなげながら登場人物の行動とその理由を想像できるようにしていく。児童が想像したことを表現できるよう、一単位時間の終わりに、きりんが心の中でつぶやいていることを吹き出しを使って書かせる。音読発表会では学習材に吹き出しを付け足して音読し、学習の積み重ねが終末の言語活動で生かせるようにする。

1. 音読の工夫から叙述に着目させる　（主）（対）

児童はこれまでの学習を通して、声の大きさや速さ、間の取り方といった音読の技能について少しずつ

意識できるようになってきている。そこで、この学習経験を生かして叙述に着目させ、登場人物の行動を具体的に想像することにつなげられないかと考えた。まず、会話文を本文から抜き出して音読させ、どのように音読するかについて話し合わせる。次に、なぜそのような工夫をして読むのかを児童に問いかける。そうすることで、音読の工夫の根拠となる叙述を見つける必要が生まれると考えた。音読の工夫の根拠を示すには、地の文の叙述に着目しなければならず、児童が文章の中の大切な言葉や文と文のつながりについて考え、登場人物の行動を具体的に想像したり、行動の理由を考えたりすることができるようになると考えた。着目すべき叙述については学習材の分析を通して精選し、音読や動作化などを取り入れながら、児童の知識や経験と結び付け、気付きを促していきたい。

1. 固定グループでの交流の積み重ね　（主）（対）

　　　　単元末の言語活動である音読発表会に向けて、本単元では3～４名の児童を一つのグループとして、単元の最初から音読発表会まで固定したグループで毎時間の交流を積み重ねることにした。同じ相手と一緒に学習材を音読したり交流したりするので、どの児童も安心して学習に参加することができる。また、同じ相手と物語の世界について繰り返し考えていくことで、役割を決めた音読にもグループの個性が発揮されると考えた。話し合いを重ねることで自分たちのグループの音読発表会という意識が生まれることも期待している。一単位時間の中に音読する時間を多く作り、音読して話し合い、話し合ったことを生かして音読するという繰り返しができるようにする。音読の際には聞き手を作り、音読を友達に聞いてもらい互いに教え合ったり、話し合ったりする状況を作ることで、音読が内容の理解を助けられるようにした。

1. 全文シートの活用　（主）（対）（深）

児童が叙述を基に想像したことを関係付け、作品に対する自分なりの思いや考えがもてるよう、第一次から全文が書かれたシートを活用して学習を進めていく。第３時では、学習材の気になるところや好きなところを全文シートから選び、全体で共有する。自分と友達の考えを比べ、選んだ理由を聞くことで、共感や疑問といった思いが生まれ、学習材を繰り返し読む意欲を引き出せると考えた。また、全文シートの活用が、場面の移り変わりに着目したり、場面の様子を比べたりすることを容易にすると考えた。最初と最後の場面の比較から、きりんの様子の変化に気付いたり、「きりんは（中略）ぴかぴかぴかぴかわらっていた」という表現について、「どんな笑い方なのだろう」「どうしてぴかぴかぴかぴか笑ったのだろう」「前にでてきた『ぴかぴかわらった』とは違うのだろうか」と場面を関係付けて考えたりすることが、作品に対する自分なりの思いや考えをもつことにつながると考えた。

第二次の学習では第１学年の発達段階を考慮し、一場面ごとに区切った全文シートを使用する。児童が集中して学習に取り組めるよう、本文と自分の考えを書き込むマス目を一枚の用紙に組み込んだ学習シートを作成した。児童が本文に音読の工夫や叙述に基づいて気付いたことや考えたことが書き込めるよう、文字の大きさや余白にも配慮した。第二次の学習を進めるとともに、音読発表会の台本が完成していく学習シートになっている。

**５　単元計画（全１０時間）**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 次 | 時 | 学習過程 | 学習活動（音読の工夫の根拠となる叙述） | ◎指導事項○指導上の留意点 | ◆評価規準★評価方法 |
| 一 | １ |  | １教師が提示する終末の言語活動を聞く。２学習のめあてを知る。学習のめあて　音どくで　おはなしの　せかいを　つたえよう３教師の範読を聞く | ◎学習のめあてを知り、言語活動の見通しをもつこと。○既習の学習材を用いて終末の言語活動を示す。 | ◆ウー①★発言★行動観察 |
| ２ | 構造と内容の把握 | １教師の後について音読をする。２話の流れに合うように挿絵を並べる。３役割を決めて音読する。 | ◎物語の登場人物や内容の大体を捉えること。○場面ごとに「○○のきりん」と名前を付ける。○会話文の主語を考えさせながら音読させる。 | ◆イー①★発言★行動観察 |
| ３ | １話全体の中で、気になるところや分からないところ、好きなところを選ぶ。２心に残った言葉や文を発表する。 | ◎心に残った言葉や文を見つけること。　○全文シートにシールを貼らせ、選んだ理由を尋ね、児童の考えをつなげたり、比べたりする。 | ◆ウー②★発言★学習シート |
| 二 | ４ | 精査解釈・考えの形成 | １本時の場面を音読する。２音読の工夫とその根拠について全体で話し合い、考えを共有する。（小ごえになってきいた）（すこしだまってからいった）（「じぶんで見てみる？」）３本時の場面を、１人で音読する。４きりんになりきって吹き出しを書く。・ありさんにぼくが見ているものをみせてあげたいな・ありさんはきっとぼくが見ているものを知らないだろうな５本時の場面と自分の書いた吹き出しを音読し、本時を振り返る。 | ◎物語の設定をつかむこと。◎地の文に着目して音読の工夫を考えること。○「ひとりぼっちの」という言葉に着目させ、きりんの様子を想像させる。○直接的な心情表現がなくても、思ったことを想像できる叙述があることをおさえる。 | ◆イー②★発言★学習シート★行動観察 |
| ５ | １本時の場面を音読する。２音読の工夫とその根拠について全体で話し合い、考えを共有する。（とことこちこちこ）（「もうすぐだよ」）（きりんは、はげました）　３本時の場面を、１人で音読する。４きりんになりきって吹き出しを書く。・遠いけど上まで行くと違う世界が見えるよ・上まで登ってきれいな景色を一緒に見よう５本時の場面と自分の書いた吹き出しを音読し、本時を振り返る。 | ◎登場人物について比べること。◎叙述をもとに、登場人物の行動を具体的に想像すること。○「とことこちこちこ」という擬態語からありの歩く様子を想像させ、きりんの大きさと比べる。○他にも違いが分かる叙述がないか考えさせる。○きりんが、なぜはげますのかを考えさせる。 | ◆イー②★発言★学習シート★行動観察 |
| ６　本　時 | １本時の場面を音読する。２音読の工夫とその根拠について全体で話し合い、考えを共有する。（きりんもぴかぴかわらった）（きりんはつぶやくようにいった）（きりんも、それきりだまった）３本時の場面を、１人で音読する。４きりんになりきって吹き出しを書く。・お母さんや仲間に会いたいな・ありさんに聞いてもらってよかった５本時の場面と自分の書いた吹き出しを音読し、本時を振り返る。 | ◎叙述をもとに、登場人物の行動を具体的に想像すること。○「ぴかぴか」という言葉に着目させ、どんな笑い方なのか想像させる。○会話文とともに「つぶやくように」「それきりだまった」を音読させ、様子を想像させる。 | ◆イー②★発言★学習シート★行動観察 |
| ７ | １本時の場面を音読する。２音読の工夫とその根拠について全体で話し合い、考えを共有する。（そのとき、はっといきをのんだ）（夕日のしずく？）（こんなきれいな花を見たのは、ぼく生まれて初めてだ）３本時の場面を、１人で音読する。４きりんになりきって吹き出しを書く。・ありさんと友達になれてうれしいな・この世界にはきれいなものがたくさんあるんだな５本時の場面と自分の書いた吹き出しを音読し、本時を振り返る。 | ◎叙述をもとに、登場人物の行動を具体的に想像すること。○きりんとありがそれぞれ見たものを対比して考えさせる。○「夕日のしずく」とはどんな花なのか、イメージをもたせる。 | ◆イー③★発言★学習シート★行動観察 |
| ８　本　時 | １本時の場面を音読する。２音読の工夫とその根拠について全体で話し合い、考えを共有する。（足もとになにかを見つけては、ぴかぴかぴかぴかわらっていた）３本時の場面を、１人で音読する。４きりんになりきって吹き出しを書く。・友達がたくさんできてうれしいな・お母さんや仲間にも教えてあげたい・かなしい気持ちがなくなったよ、だってありさんたちと仲良くなれたから５本時の場面と自分の書いた吹き出しを音読し、本時を振り返る。 | ◎叙述をもとに、登場人物の行動を具体的に想像すること。◎場面をつなげたり比べたりして読むこと。○１場面のきりんの様子と比べて考えさせる。○３場面の「ぴかぴかわらった」との違いについて考えさせる。 | ◆イー④★発言★学習シート★行動観察 |
| 三 | ９ | 共有 | １友達と話し合いながら音読発表会の準備をする。・「とことこちこちこ」のよむはやさをかえるといいね。・「ぴかぴかわらっていた。」をぴかぴかのようすがあらわれるようによむには、どうしたらいいかな。 | ◎友達の想像したことや吹き出し、音読の工夫を聞いて自分の考えと比べること。○理由を尋ねる、友達の考えに同意する、違う考えを伝えるなど、話し合いの状況に合わせて助言する。 | ◆ア―①★行動観察★発言 |
| 10 | １音読発表会をする。２音読発表会の感想を伝え合う。 | ◎学習してきたことを生かし、相手を意識して音読すること。◎発表の感想を共有すること。○お話の世界を想像しながら読めたか、相手に伝わったかという視点で振り返らせる。 | ◆ウー③★行動観察★発言 |

**６　本時の学習（６/１０）**

(1) 本時のねらい

音読することを通し、叙述を基に、ありと海の向こうを見るきりんの行動を具体的に想像する。

　(2) 本時の展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 学　習　活　動 | ◎指　導　事　項 | ◆評価　★評価方法　○指導上の留意点 |
| １．前時までの学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。ありと　うみのむこうをみる　きりんに なりきって 音どくしよう。２．本時の場面を音読する。　　（会話文のみ）３．音読の工夫とその根拠について全体で話し合い、考えを共有する。４．本時の場面を１人で音読する。５．「それきりだまった」きりんになりきって学習シートの吹き出しを書く。６．本時の場面と自分の書いた吹き出しを音読し、本時を振り返る。 | ◎文章の中の大事な言葉に気付き、その意味を考えること。◎音読の工夫につながる根拠を叙述から見つけること。◎叙述に基づいて登場人物の行動を具体的に想像すること。言語活動を充実させるための手立て・音読で、きりんの声の大きさの変化に着目させる。「ついたねえ。」　＜よろこんでいて元気な（大きい）声＞　　　　↓「ぼくは、うみの　むこうで　生まれた。」＜つぶやくような（小さい）声＞声が小さくなった理由を問い、きりんの様子を想像させる。 | ○場面の様子や登場人物の行動などについて、前時までに児童が考えたことを、全文シートと共に掲示しておく。○３人組で役割交代しながら音読する（きりん・あり・聞き手）ことを伝える。○きりんの言葉を中心に工夫を話し合いながら音読するよう促す。○どうしてそのような工夫が必要なのか、根拠となる地の文に着目させる。○「ぴかぴか」はどのような時に使うのかを考えさせる。○「ぴかぴかわらった。」「つぶやくようにいった。」などの言葉は、前後の会話文と一緒に音読したり、動作化したりしながら、具体的にきりんの行動を想像させる。○根拠となる叙述と児童の考えを板書で整理する。○音読することで、話し合ったことを自分の中でもう１度確認させる。○だまったきりんが、心の中で言っている言葉であることを意識させる。○何名かの児童に吹き出しを発表させ、考えを共有させる。◆叙述を基に、ありと海の向こうを見るきりんの行動を具体的に想像することができる。（学習活動３・５で評価）★発言・学習シート評価に対する指導○概ね満足できる児童への手立て　きりんの声の変化に着目して考えてみるよう促す。○概ね満足できる状況を目指す児童への手立て　地の文や板書をもとに、なぜだまってしまったのかに気付かせる。 |

**６　本時の学習（８/１０）**

(1) 本時のねらい

音読すること通し、叙述を基に、ぴかぴかぴかぴか笑うきりんの行動を具体的に想像する。

　(2) 本時の展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 学　習　活　動 | 指　導　事　項 | ◆評価　★評価方法　○指導上の留意点 |
| １．前時までの学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。きりんが　どのように　かわったのかを　そうぞうして　音どくしよう。２．本時の場面を音読する。３．音読の工夫とその根拠について全体で話し合い、考えを共有する。４．本時の場面を１人で音読する。５．ぴかぴかぴかぴか笑ったきりんになりきって学習シートの吹き出しを書く。６．本時の場面と自分の書いた吹き出しを音読し、本時を振り返る。 | ◎文章の中の大事な言葉に気付き、その意味を考えること。◎音読の工夫につながる根拠を叙述から見つけること。◎叙述に基づいて登場人物の行動を具体的に想像すること。言語活動を充実させるための手立て・ありたちの「ぴかぴか笑った」に対し、きりんは「ぴかぴかぴかぴか笑った」と表現されていることに着目させ、その理由を考えさせる。・「故郷のことを懐かしむ気持ちは無くなったのか」と問い、児童の思考を揺さぶる。 | ○場面の様子や登場人物の行動などについて、前時までに児童が考えたことを、全文シートと共に掲示しておく。○音読をする前に、本時の場面には会話文がないことに気付かせる。○きりんの行動を想像することで、地の文の音読の仕方を工夫できることに気付かせる。○なぜそのような音読の工夫をするのか、根拠を考えさせ、児童の意見と叙述を結び付ける。○これまでの場面のきりんの様子と比べて考えさせ、その変化に気付かせる。　・ひとりぼっち　　・つぶやくように　　・だまった○「ぴかぴか」と「ぴかぴかぴかぴか」との違いについて取り上げ、その違いについて話し合わせる。◆叙述を基に、きりんの行動を具体的に想像することができる。（学習活動３・５で評価）★発言・学習シート評価に対する指導○概ね満足できる児童への手立て　なぜ、「ぴかぴか」ではなく「ぴかぴかぴかぴか」なのか考えさせる。○概ね満足できる状況を目指す児童への手立て　「ぴかぴかぴかぴか」を別の言葉に置き換えて提示する。　・げらげら　　・にやにや　・にっこり　　・ひとりぼっちで○音読することで、話し合ったことを自分の中でもう１度確認させる。○ぴかぴかぴかぴか笑ったきりんが、心の中で言っている言葉であることを意識させる。○何名かの児童に吹き出しを発表させ、考えを共有させる。 |

**『夕日のしずく』　学習材分析　（作・あまんきみこ）**

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 場面 | あらすじ | 予想される音読の工夫 | 工夫の根拠となる叙述 | 考えさせたいこと |
| **①導入**きりんとありの出会い**導入**きりんとありの出会い | ある夏の日きりんが海を見ていると、一匹のありに「なにを見ているの」と聞かれ、「のぼっておいでよ」と言った。 | ○「だれ？どこ？」（小さな声で、不思議そうに、おどろいて）○「いっぱいいるなあ。」（おどろいて）○「ただ、見ているのさ。」（何を言ったらいいかわからなくて迷いながら）○「じぶんで、見てみる？」（たずねるように）○「ようだよ。ここまでのぼっておいでよ。」（誘うように、優しく） | ○どこからか 小さなこえが きこえてきた。「きりんくん、きりんくん。」○きりんは草はらを見まわした。○きりんは小ごえになってきいた。○目をこらすと、小さいありたちが見えてきた。○きりんが まばたきをした。○きりんは、すこしだまってから、いった。 | ○題名の「夕日のしずく」とは、何か。○いつ、どこで、だれが、何をしているか。（場面設定）・目をこらす○その場面で何が起こるか。（物語の発端、きっかけ）○だまっている時、きりんはどんなことを考えていたか。 |
| **②展開１**きりんをのぼるあり | ありがきりんの体をのぼり、きりんはありをはげました。 | ○「がんばって。」（励ますように、優しく）○「もうすぐだよ。」（励ますように、やさしく、手伝うように）○「がんばれ、がんばれ。」（前より大きな声で、励ますように、力いっぱい） | ○とことこ、ちこちこ。とことこ、ちこちこ。「とおいなあ。」とことこ、ちこちこ。とことこ、ちこちこ。ありは、つかれてきた。○とことこ、ちこちこ。とことこ、ちこちこ。ありは、うごかなくなった。「まだまだなの？」○きりんは、はげました。 | ○「とことこ、ちこちこ」から、どんな様子を思いうかべるか。○「とことこ、ちこちこ」がくり返されていく中でありはどんな様子になっていくか。○ありの様子を見ているきりんはどんなことを思っているか。 |
| **③展開２**海を見るありときりん | ありがきりんの角の上で海を見る。きりんも海を見ながら「かあさんと見た夕日もきれいだった」と言った。 | 〇「ついたねえ。」（大きな声で、うれしそうに）〇「ぼくはここにきて、あのうみのむこうを、見ているんだよ。」〇「ぼくはうみのむこうで生まれた。」（小さな声で、さびしそうに）〇「かあさんとならんで見た夕日も、こんなにきれいだった。なかまも、いっぱい、いた。」（もっと小さな声で、悲しそうに） | ○ありは、きりんのつのの上で、ぴかぴかわらった。〇きりんも、ぴかぴかわらった。○きりんはつぶやくようにいった。〇きりんも、それきりだまった。〇うみかぜがふく。たいようがしずんでいく。 | ○「ぴかぴかわらう」の「ぴかぴか」はどんな時に使うか、どのような様子で笑っているか。○きりんの「あのうみのむこうを、見ているんだよ。」とは、何を見たいのか。○きりんはだまりながら、どんなことを思っているか。 |
| **④山場**きりんは夕日のしずくのような赤い花を見つける | 太陽が沈んでいき、ありを地面に下ろしたとき、夕日のしずくのような赤い花を見つける。きりんは、その晩、夕日のしずくのような赤い花の夢を見た。 | ○「こんどは、下ろしてあげようね。」（優しく）○「夕日のしずく？」（おどろいたように、小さな声で、たずねるように）〇「きれいだなあ。」○「こんなにきれいな花を見たのは、ぼく、生まれてはじめてだ。」（ゆっくりと、うっとりとして、うれしそうに） | 〇きりんは、ありを、やさしくじめんに下ろした。〇そのとき、はっと、いきをのんだ。〇そこに、赤い小さな花が、ぽつんとさいていた。○きりんは、そのばん、夕日のしずくのような赤い花のゆめを見た。 | ○きりんはどのような動きでありを地面に下ろしたか。○きりんが感動したのは、どんなことか。・いきをのむ○ありときりんの「生まれてはじめて」の違いについてどう思うか。 |
| **⑤　終末**次の日からのありたちときりん | 次の日から、ありは仲間を連れてきりんに上り、何かを見つけてはぴかぴか笑った。きりんは、足もとに何かを見つけては、ぴかぴかぴかぴか笑っていた。 | ○きりんは、ありたちをそっと下ろすとき、足もとになにかを見つけては、ぴかぴか ぴかぴかわらっていた。（「そっと下ろすとき」を優しく）（「ぴかぴか ぴかぴか」をゆっくりと強調して） | ○つぎの日から、ありはなかまをつれて、ときどき、きりんにのぼらせてもらった。○ひとりぼっちのきりんが、なだらおかをかけ上がって、とおくのうみを見ていた。（場面①との対比）○ありたちは、せかいのはてを見まわして、とおくになにかを見つけては、ぴかぴかわらった。○「ついたねえ。」きりんもぴかぴかわらった。（場面③との対比） | ○きりんは、足もとに何を見つけて「ぴかぴかぴかぴか」笑ったのか。〇きりんの「ぴかぴか」笑ったと「ぴかぴかぴかぴか」笑ったとはどう違うのか、なぜ違うのか。 |